

第5B（小）分科会 —教職員の専門性に関する課題—

提案主題 小学校におけるグローバル教育の推進と教頭の役割

司会者	中津市立鶴居小学校	芝原弘明
提言者	中津市立豊田小学校	古門俊一郎
助言者	中津市立山口小学校校長	桑野正弘
記録者	中津市立三郷小学校	賀来紀子

1 討議の柱

- ・小学校におけるグローバル教育を組織的に進める中での教頭の役割はどうあればよいか。

2 協議の実際

(1) 質疑応答

- ・A L T, N E T, 国際交流員などの教育資源の利用の仕方について
—それぞれの指導できる時間や内容など、外国語活動担当・国際理解教育担当の教職員とも調整しながら、全体計画を整備していきたい。
- ・小中連携について
—豊陽中学校と連携指導担当校になっている。英語については、つながりが大切であることほどの教職員も理解している。中学校との話し合いの場を2学期も計画的に持つようになっている。
- ・教職員のモチベーションのアップに向けて
—教職員、子どもの意識調査をまとめ、2学期にきちんと検証していきたい。

(2) グループ討議

- ・学級担任に積極的にT Iに取り組んでもらうために教頭としてどうかかわったらよいか。
- ・外国語活動・英語についての小中一貫した取り組みが、必要である。その取り組みの中で意識アップ、技能アップを進めていく。
- ・中学での英語嫌い解消のためには、小中連携は欠かせない。教頭の役割は、担当者にミッションを与えるなど積極的に働きかけ、組織づくりをしていくことである。

3 指導助言

- ・グローバル化をどう共有化していったか、ステップが大切である。各担当者の校務分掌の位置づけと連携、実際のコミュニケーションをどうとっているか再度確認していきたい。
- ・誰がどのように動いているのか全教職員の取組の動きが見えるようにする（見える化）。分掌主任が発信できる掲示板等を整備し、あわせて各クラスの様子や学びの事実を写真などで掲示していく。価値観が古い教職員にはよい刺激になる。教職員の力量差をお互いでどう補って伸ばしていくか、その体制や同僚性構築がマネジメントである。
- ・グローバル教育、I C T教育、特別支援教育など教員の専門性が問われ、それぞれに対応していく大変さがある。今ある組織を活用し充実させていく必要がある。教員も子どもたちと同様に、思考して議論・実践していく力が大切で、それがグローバル化に近づく。